

過ぎない。かくの如く民族陣營と日本の聯繫は、決して切れてゐるのではないのである。問題は今後日本政治の主動的地位が、どれだけ推進せられるかに懸つてゐるのである。そして以上にも明かな如く、この民族陣營との關係を推進する方向は、運動の主流をなす一團と現實の接觸を持つと同時に、東亞共榮圈問題の持つ理想的一面をガンデイに生れてゐる印度の思想的性格と照應せしめる事ではなければならない。従つてそれは東亞共榮圈の理論を説明する事であつてはならない。英米勢力を顧慮する事なく、西洋勢力からのアジア解放を明瞭な目標として掲げ、日本と印度はその上に立つて共同の敵を持つ事の具體的な説明が行はなければならない。又この上に立つては、印度がアジア的要素の強い所謂東洋社會の一典型をなし、壓倒的な農業國——その人口の八九%迄が農民である——である事に注意せられなければならない。それは印度に於て民族解放が同時に又彼等を土地問題から解放する事ではなければならない。彼等を土地問題から解放するためには、又過剩人口を吸収する民族産業の發達問題を、我々の前に提起するからである。

これを以ても先づ日本の採るべき行動は、印度に對して持つ文化的、經濟的利益を政治的利益に一致せしめる事である。これを指導し組織する政治力の確立は政府の責任でなくて、國民の責任である。そしてこのアジア民族の解放を内容とする政治的方向は、東亞共榮圈問題を古き歴史に結ばれる日・支・印の三國樞軸の上に發展せしめてこそ始めて力あるものとなり、力の優位を確保し得ると言ひ得るであらう。

昭和十六年十二月一日印刷
昭和十六年十二月五日發行

現代印度の諸問題

定價參圓五拾錢

著者 脇山康之助

印刷者 大橋松雄
東京市小石川區久堅町一〇八番地

發行者 鮫島威男
東京市世田谷區世田谷二丁目



配給元

東京市神田區淡路町二丁目九番地

日本出版配給株式會社

發行所

東京市麹町區有樂町二丁目三番地
出版文化協會會員番號一〇四五〇三

幸矢書房



